

校長室より

令和6年10月11日(金)

「慣れの怖さ」



2024年のプロ野球はセ、パともに今季の全日程を終了しました。毎年のことながら、シーズンも終盤になると選手や監督・コーチの去就が報じられることが多くなるのですが、その中でも印象に残る退任があったので紹介します。

その人とは中嶋聡。昨年までパ・リーグの3連覇を成し遂げたオリックスの監督です。しかし、今季は絶対的エースだった山本由伸がアメリカ大リーグへ移籍したほか、主力に故障者が相次ぐなど苦しい戦いを強いられ、5位に沈みました。

最終戦(10月6日)の試合後、報道陣の取材に中嶋監督は「3連覇したチームとは思えないほど、優勝争いに絡めずに終わり、辛かった。うまくいかず悔しかった」と自ら切り出し、辞任に至った具体的な理由も説明しています。「今まで通りにやっても、人って慣れるじゃないですか。慣れという部分が今年は強く出てしまった。就任時は最下位からのスタートだったので、初めに言っていたのは全力疾走であり、攻守交代であり、そこはしっかりやってくれと。勝ったチームはやらんでいいのか。どれだけ言っても改善されなかった」と今年のチームに見えた変化を挙げています。

中嶋監督は妥協を許さない性格で、わずかな隙や緩んだ空気に納得しません。その思いを抱えながら、この日の最終戦(8-1で楽天に勝利)のあと、「今日みたいにできるわけですね。一試合一試合、連続になった時、なぜできなくなったのか。ということですね。一年間通してやるのが最低限の約束をしていたが、そこについての薄さが出た。その部分はどれだけ言ってもやれないのは、言ってないのと一緒に。そこに関して慣れなのかな」と考えを語りました。

うまくいっているときはたいした努力をしないにも関わらず、万事が流れるように進むものです。でも、そこには知らないうちに「慣れ」や「あまえ」が生まれており、気がつけば過去の栄光だけを言っているだけの弱者になってしまうのだということを私たちに教えてくれた気がします。

「初心忘るべからず」「凡事徹底」…いつまでも大切にしたいことです。

